

府中駅ペDESTリアンデッキ バリアフリー化の推進は

エレベーターや屋根の設置を 検討していく

村崎 啓二議員 平成17年3月には、府中駅南口第三地区市街地再開発ビルが完成する。府中駅のペDESTリアンデッキは、駅の通行の要として、一層大きな役割が期待される。だれにもやさしい魅力あるまちづくりのため、更なるバリアフリー化の推進が必要と思うが、ペDESTリアンデッキへ

の要として、一層大きな役割が期待される。だれにもやさしい魅力あるまちづくりのため、更なるバリアフリー化の推進が必要と思うが、ペDESTリアンデッキへ



▲ペDESTリアンデッキへ続く階段

のエレベーター設置について、市の考えを聞きたい。また、階段に屋根のない箇所があるが、設置する考えがあるか。
都市建設部長 エレベーターの設置は、バリアフリーの観点からも必要と考える。今後、歩行者の流れなどを調査し、必要な箇所への設置を検討していく。
屋根のない階段では、雨天時、通勤通学者などの利用者に大変不便をかけているので、今後、構造等の調査を行い、屋根の設置を検討していく。

ワンルームマンション 高齢者用住戸の義務化は 本市の都市特性を踏まえ 研究していきたい

備 邦彦議員 本市でも高齢化率が上昇し、高齢者の住居の問題が切実になってきている。そのような中、市内でもワンルームマンションが増加している。
高齢者の心身の状態に応じた住まいの整備を進めることは大切と思うが、ワンルームマンションに、高齢者用住戸の設置を義務づける条例をつくる考えがあるか聞きたい。
福祉保健部長 ワンルームマンションは、居住者の支え合

い活動の推進や、福祉サービスの連携システムの構築といった点で大きな課題があり、高齢者住戸の設置義務化は、研究すべき点が多いと考える。
現在、区部では、ワンルームマンション建設の抑制を目的に、高齢者住戸設置義務づけの条例化などの動きがあるので、今後、本市の都市特性を踏まえ、他市の動向を見ながら研究していきたい。
他コンビニでのスポーツ施設等の申し込みを

市長の退職金 見直す考えは

今後の人事院勧告等を 見守っていく

田中 慎一議員 市では、この4年間、様々な行政改革に取り組んできたが、私の認識では、手をつけていないのが市長の退職金ではないかと考えている。
市長という重責を担われて、大変な仕事であるということに承知しているが、決して退職金が、蓄財になってはいけ

また、退職金の廃止または、見直しについて考えたことがあるか聞きたい。
総務部長 市長の退職金の位置は、26市中、上位から16番目である。
市長退職金は、他市と比較しても、高率、高額ではないので、廃止や見直しについては、現在のところ、検討していない。
今後は、国の人事院勧告や他市の動向を見守っていきたいと考えている。

四谷循環コミュニティバス 本格運行への見通しは

平成16年5月末を見込み 本格運行へ移行したい

手塚 歳久議員 府中市コミュニティバス「ちゅうバス」は、初日から多くの人にご利用され、順調に開始したと思う。そのような中、四谷循環ルートは、他ルートより遅れて、現在実験運行が行われているところである。そこで、このルートの実験運行から本格運行への移行の見通しについて、市の考えを聞きたい。
都市建設部長 本格運行への移行は、実験運行を検証し、ふさわしいと判断されれば、

平成16年5月末を見込み、継続して本格運行に移行したい。
議員 府中四谷橋付近の、大気汚染などの環境調査の状況はどうか。
都市建設部長 都が行った調査によれば、二酸化炭素、一酸化炭素、一酸化硫黄の全ての項目で、環境基準を下回っている。
他 小中学校の複数担任制の充実について●市民プール等の利用期間外の有効活用について



▲四谷付近を走る「ちゅうバス」

けやき並木の保全 車両規制でイベントを 開催する考えは

実施については 関係機関と調整していきたい

高野 律雄議員 平成16年度は、期せずして、市制50周年とけやき並木が国の天然記念物に指定されて80周年である。
本市の宝物と言え、けやき並木を車の排気ガスから守り、次の世代に無傷で伝えるのが、我々、市民の使命と考える。



▲府中のシンボル「けやき並木」

そこで、市民が自発的に車乗り入れないよう、啓発する意味も含め、市民朝市やグリーンフェスティバルなど、様々なイベントをけやき並木で開催すれば、この並木の大切さを市民が共有でき、かつ、イベントのマンネリ化も防げると思う。そして、商店街の活性化にもつながると考えるが、どうか。
環境安全部長 けやき並木でのイベントに伴う交通規制は、その内容にもよるが、一時的

包括予算制度の導入を 検討する考えは 引き続き他市の状況等を 研究していきたい

小山 有彦議員 本市の平成16年度予算編成方針では、既存事業の徹底した見直しを行い、原則として、一律5%減とすると聞いている。
削減対象の事務事業評価の中には、予算の制約により、市民ニーズに十分応えていないものもあり、画一的な予算の削減は、予算効果を低下させる懸念がある。
そこで、予算の削減と効率化を目指す手法として包括予算制度がある。本市でも、こ

の制度の導入を検討すべきと思うが、市の考えは。
財務部長 本市は、シーリング方式(前年度予算からの定率削減方式)をとっているが、生活保護費などの扶助費等では、増額を認めており、必要な施策には、予算化するなど、市民ニーズに対応している。
現在、包括予算制度のメリット等を調査しているが、引き続き、他市の状況等もあわせ研究していきたい。

ホスピスケア その認識は

残された時間を充実して 生きるための心の支え

遠田 宗雄議員 榊原記念病院の開院に伴い、市内の病院や医師会等、医療サービスの取組みも変化していく中、がん治療でのホスピスケアへの関心が高まっている。
そこで、ホスピスケアについての認識を聞きたい。
また、ホスピスの病院や在宅ホスピスケアのサポートを検討するプロジェクトを設置する考えはあるか。
市長 重篤な疾病等により、心身とも不安定な人の中には、心の支えを得て、残された時間を充実して生きるためのホスピスケアを必要としている人もいると認識している。
福祉保健部長 都の保健医療計画では、ホスピスケアをタ

ーミナルケアの支援として登載している。具体的な取組みは、地域保健医療推進協議会で協議され、市町村の役割も検討されているので、その結果をみて対応していきたい。
他 映画を活用し府中市のイメージアップを●図書館サービスの充実を求めている